

G. 正確さ G-1 釘打ち

氏名：	記録日：	記録者：
-----	------	------

◆用意するもの：① フェルト（書道用下敷き）、② 木片、③ 釘3本、④ 金槌

◆検者と被検者の標準位置：

被検者はテーブルに向かって椅子に腰掛け、対象手を楽な肢位で机の上に置く。検者は原則として被検者のほぼ正面に自分の位置を決める。

◆検査手順：

① フェルトを机上中央に敷き、その上に② 木片を横長に置き、③ 釘3本を約5cm間隔で、頭部を10mm残して打ち込んでおく、④ 金槌を対象手の近くの空中に、持ちやすい位置に提示して言う：「この3本の釘を打ち込んでください。はい、どうぞ!」。釘の打ち込みは、1本あたり最大10打とし、それを超えた場合には、「次の釘についてください」と言う。

☆非対象手で木片を押さえてよい（釘の固定は不可）。

◆対象手：通常は優位手（被検者が最も使いやすくと感じるほうの手）のみでよい。

◆記録：

検者は釘の頭に金槌が打ち込まれる状態を観察し、試行ごとに判定を書き込む。

○：釘を完全に打ち込んだ

△：不完全に打ち込んだ

×：ほとんど打ち込めない

「成功率」：完全に打ち込むことができた釘の数の割合

◆総合判定：

記録に基づいて、以下のとおり総合判定を書き込む。

G (Good)：判定結果のすべてが○

F (Fair)：判定結果は○と△のみであるが、○の数が多い。

P (Poor)：判定結果は○と△のみであるが、△の数が多い。

T (Trace)：判定結果に×が1つ以上ある。

Z (Zero)：判定結果はすべて×

使用手 金槌使用 () 手+木片押さえ () 手

	釘1	釘2	釘3	成功率	総合判定	備考
試行1	(○ △ ×)	(○ △ ×)	(○ △ ×)	/3		
試行2	(○ △ ×)	(○ △ ×)	(○ △ ×)	/3		
試行3	(○ △ ×)	(○ △ ×)	(○ △ ×)	/3		

G. 正確さ G-2 注ぎ入れ

氏名：	記録日：	記録者：
-----	------	------

◆用意するもの：

- ① ペットボトル2本（片方に200ccの水を入れておく）、② レジ袋またはビニール袋（こぼれた水を受ける即席の盆として使う）、③ ストップウォッチ

◆検者と被検者の標準位置：

被検者は机に向かって椅子に腰掛け、両手を楽な肢位で机の上に置く。検者は原則として被検者のほぼ正面に自分の位置を決める。

◆物品提示と検査指示：

検者はあらかじめ、レジ袋またはビニール袋で即席の盆を作る。水の入ったペットボトルを対象手の前に、空のペットボトルを非対象手の前に置いて言う：「この水をこぼさないように全てボトルに入れてください。念のため時間を測りますが、急ぐ必要はありません。正確を第一としてください」。原則として優位手のみ3試行行う。参考のために注ぎ開始から終了までの所要時間を測る。

☆非対象手で空のボトルを押さえてよい。ただし持ち上げてはならない。

◆対象手：通常は優位手（被検者が最も使いやすいと感じるほうの手）のみでよい。

◆記録：ボトルに入った水の量を目視で評定する。

注ぎ入れる手（右手）+押さえの手（左手）

	注ぎ入れた水量	所要時間*	備考
試行1	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行2	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行3	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
中央値	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	

*所要時間は参考のために測定する

注ぎ入れる手（左手）+押さえの手（右手）

	注ぎ入れた水量	所要時間*	備考
試行1	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行2	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
試行3	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	
中央値	0/5 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5	(秒)	

*所要時間は参考のために測定する

G. 正確さ G-3 マス目内記入

氏名：	記録日：	記録者：
-----	------	------

◆用意するもの：

- ① HB 鉛筆, ② ストップウォッチ, A5 版紙片

◆検者と被検者の標準位置：被検者は机に向かって椅子に腰掛け、両手を楽な股位で卓上に置く。検者は原則として被検者のほぼ正面に自分の位置を決める。

◆検査手順：

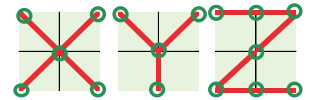
- ①机上に、本紙を書きやすい位置に置く、②対象手の前の空中に、HB 鉛筆を持ちやすい位置に提示し、該当部位をさしながら、次のように言う：「マス目をいっぱいを使って、これ（見本）と同じ文字を書いてください。文字の端が必ずマス目の縁に正確に届くようにし、かつはみ出さないようにしてください。またマス目の中央の点を通るようにしてください。書き直しはしないでください。念のため時間を測りますが、急ぐ必要はありません。正確を第一としてください。どうぞ!」③3 試行続けて行うが、参考のためにそれぞれの所要時間を測る。

☆実施に際して、検査用紙の上部を A5 版紙片で隠し、点線以下のみを提示する。

◆対象手：通常は優位手（被検者が最も使いやすくと感じるほうの手）のみでよい。

◆記録：

接点の正確さ：以下の 16 点について正確に接しているかどうかを判定する。正確であるとみなす基準は接点での不足または過剰が±1 mm 以内であることとする。評定箇所は以下の 16 箇所である。



(5箇所) (4箇所) (7箇所)

X についてはマス目との接点 4 箇所および中央の交点 1 箇所 (5 箇所)

Y についてはマス目との接点 3 箇所および中央の交点 1 箇所 (4 箇所)

Z についてはマス目との接点 6 箇所と中央の交点 1 箇所 (7 箇所)

使用手 () 手

	記入の正確さ	所要時間*	備考
試行 1	()/16	(秒)	
試行 2	()/16	(秒)	
試行 3	()/16	(秒)	
中央値	()/16	(秒)	

*所要時間は参考のために測定する

試行1 試行2 試行3

(上段は見本)